

21 世紀のビジネスに欠かせないデザイン思考を学ぶ

株式会社biotope
代表取締役 佐宗 邦威



目 次

| | |
|------------------------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 1. ビジネスでデザイン思考を実践するには? ~ ストーリーテリング | 2 |
| 2. 21 世紀のビジネスにおけるデザイン思考 | 5 |
| (1) 落書きエクササイズ | 5 |
| (2) デザイン思考で仕事をする = 今見ぬ世界を創るための旅 | 7 |
| (3) デザイン思考の思考法 | 7 |
| (4) デザイン思考の創造サイクル | 8 |
| (5) デザイン思考を実践するための 5 つの要素 | 9 |
| 3. キャリアとしてのデザイン思考の活用法 | 13 |

はじめに

今日、企業は絶えずイノベーションを起こすことが求められている。イノベーションを起こすには Design, Engineering, Business の 3 つの要素を協働させることが必要だ (図表-1)。

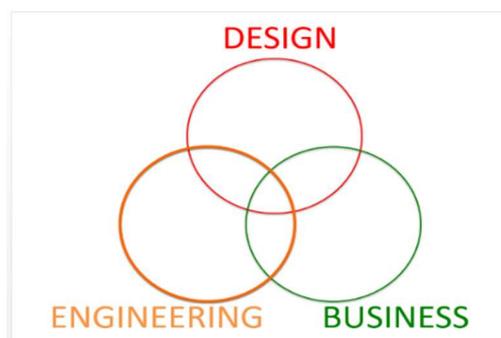
- ・ Design(構想) : 人間にとって望ましい姿を構想する
- ・ Engineering(実現) : 構想を実現する、形にする
- ・ Business(商売): 社会にとって影響力を広げていく 商売の仕組みをつくる

そして、これら 3 つが協働できる状況を創り出す、いわばプロデューサーたる人材も求められている。

この協働の具体的な手段として注目されているのが「デザイン思考」である。マッキンゼーや IBM といった世界的な大企業も、この発想に注目している。本稿をお読みになっている皆さんの中にも、大きな組織の中でお仕事をされている方が多いと思う。大きな企業の中でいかに 3 つの輪を協働させ、クリエイティビティを活用していくのか。この点についても、本日お話しさせて頂く。

では、デザイン思考とはどのような発想法なのだろうか。ウィキペディアによれば、「人間中心デザインに基づいたイノベーションを起こすための、主として非デザイナーを対象とした発想法である。目的の 1 つとして、デザイナーの発想やツールを誰でも使えるようにすることで幅広い問題解決を可能にすることがあげられる。ここで言及されるデザインとは、見た目の色合いといった表現に限定されるものではなく、現状をよりよいものに変えていくという広義の意味でのデザインである」とある。私個人としてはデザイン思考を「非デザイナーが、ユニークな視点で課題を発見し、創造的に解決策を作る方法」と定義している。

図表-1



<私が成し遂げたいこと>

私が成し遂げたいことは以下の2つだ。

- ①イノベーションを生みやすい環境（生態系）を整備した上で、最新の技術をイノベーターに活用してもらおう。それが、日本にいるイノベーターの力を生かすために必要だ。このためにデザイン思考を広めていきたい。
- ②デザインにほど遠い法学部出身の私でも、デザインを学び、実践できることを証明する。「誰でもデザイナーになれる」方法論を広げ、イノベーションの裾野を広げていく。

本日は、エクササイズを交えながら、皆さんに「デザイン思考の活用の仕方」についてイメージを持っていただきたい。

1. ビジネスでデザイン思考を実践するには？ ～ ストーリーテリング

デザイン思考の手法の1つに、「ストーリーテリング」がある。通常のマーケティングリサーチは、ある商品がユーザーにどのように使われているかに焦点を当てる。一方でデザイン思考は、ユーザーがどのような人であり、何に価値を置いているかを、その人の話を聞きながら感じていくことを重視する。

【エクササイズ】

これを実践するために、「ストーリーテリング」のエクササイズを行いたい。これから皆さんに「私がデザイナーになった経緯」をご紹介しますので、以下のことを行いながら聞いていただきたい。

- ・ストーリーを聞きながら、「大事なな」と思ったところや「気づき」をメモしてください。
- ・ストーリーの中で、特に私が「大事にしている価値観や感情」が感じられた部分があったら、それを別途書き留めてください。

<私がデザイナーになった経緯1：学生時代>

私の学生時代の専攻は法律である。しかし勉強は思うように進まなかった。ルールを変えることでしか世の中を変えられないことに気づき、法律に面白みを感じられなかったからだ。その頃、経済系サークルに所属しており、ビジネスが面白いと感じ始めていた。そんな折、学生特派員としてシリコンバレーで研修を受けることになった。そこで見たのは、熱意を持って仕事に取り組む起業家たちの姿であった。その姿を見て自分もワクワクし、起業に興味を持つようになった。

当時、印象に残ったことがある。現地でとある理系学生と一緒にプレゼンを作成していた時のこと。彼は一度作ったプレゼンを壊しては作り直し、また壊しては作り直す、という作業を繰り返していた。彼は、もっと良いプレゼンが出来るのではないかと考え、一度